

ま ちづくり——。皆さんは
この言葉を聞いて、どんなことを思い浮かべるでしょうか。

道路、公園、建物、自然、そして人。同じまちでも人の価値観や居住環境などによって、住み心地は大きく変わってきます。

例えば、家を建てる場所。利便性を考え、駅に近く周辺に飲食店が立ち並ぶ場所を選ぶ人もいれば、閑静な所を好み、虫の音が聞こえ、開けっ放しの窓から心地よい風が入る自然豊かな場所に居住する人もいます。人の価値観はさまざまで、人の数だけまちづくりのアイデアは存在し、まちづくりの可能性は無限に広がります。

85%が住みやすいと回答

平成30年度に実施した三芳町住民意識調査報告書によると、三芳町の住みやすさについて「住みやすい」と答えた人は85・1%。すべての年代で8割以上の人が「住みやすい」と回答しています。

定住意向についても「住み続けたい」が8割を超え、中でも20代の定住意向が71・2%と前回調査（平成26年度）より約17%も上昇し、幅広い年代が三芳町に愛着をもち、定住の意識が芽生えていることがわかります。

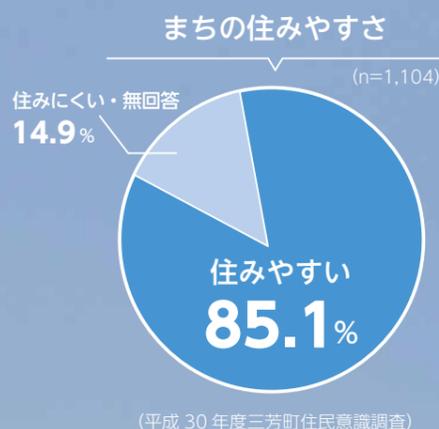
都市計画「みよし machi JAM」

町では、三芳町の都市将来像を示す「都市計画マスタープラン」が来年3月に20年の計画期間を終えます。マスタープランは行政だけでなく、住民だけではなく、住民意見を反映し、町と住民が一体となって作成するまちづくりの基本方針です。

また、今年新しいまちづくりの方法として「みよし machi JAM」が始まります。町長が町の団体やサークルの皆さんと気楽に話ができる所に伺って対話し、率直な意見やアイデアを聴いて、来年町政50周年を迎える三芳町の未来への政策を住民の皆さんと一緒に考え、取り組んでいこうとするプロジェクトです。

未来のまちづくりに住民の意見・アイデアを

住みよい町になるために進める協働のまちづくり。そこに不可欠なのが住民の皆さんの意見やアイデアであり、それを吸い上げる仕組みです。今月号は、未来への新たなまちづくりを考える「都市計画マスタープラン」の地域別懇談会と「みよし machi JAM」を紹介します。



“より住みよい”まちになるために

伝えませんか あなたのアイデア。

未来の町のビジョンを描く「都市計画マスタープラン」と、新たに始まる「みよし machi JAM」。今月号は、住民のアイデアとともに進める2つのまちづくりについて、特集します。

たくさんの緑に囲まれた竹間沢東公園で散歩する親子。住民一人ひとりの意見が形となり、安心して住みよい町をつくっていきます。